

ゴルフにおける参加動機の特徴および類型化に関する研究

Motives to participate in golf and an attempt in classifying of the motives

西 田 保*

Tamotsu NISHIDA*

Abstract

From the perspective of golf as a lifelong sport, the present study was conducted in order to clarify the participation motives of male amateur golfers, and to classify these motives into typical motivational patterns. The participants were 256 male amateur golfers, ranging in age from 24 to 76 years ($M=48.0$, $SD=11.0$). They reported a mean of 14.5 years of golf experience, and a mean 18-hole score of 98.3 ($SD=11.0$) ranging from a low of 75 to a high of 130. A questionnaire was constructed psychological and other items designed to assess the motives to participate in golf. These items were based on previous studies of participation motivation, enjoyment in sport and sport commitment. The participants were asked to complete the questionnaire in the lobby of clubhouse or at the practice range.

Factor analysis of the motives to participate in golf revealed six psychological factors (ability improvement, competence, refreshment, comfortable fatigue, affiliation, and mortification), and three other factors (health and physical fitness, lifelong sport, and enticement). In general, the scores of affiliation, lifelong sport, health and physical fitness, ability improvement, and refreshment were higher than those of competence and enticement. Concerning comfortable fatigue, and health and physical fitness, older golfers (50-75 years) showed significantly higher scores than younger ones (24-49 years). The younger golfers showed significantly higher score of ability improvement than the old ones. In comparison with intermediate golfers or beginners (98-130 strokes), advanced golfers (75-97 strokes) showed significantly high scores of ability improvement, competence, health and physical fitness, and lifelong sport. Furthermore, cluster analysis showed that the golfers could be classified into six types of the participation motives of golf: social friendship, ability enhancement, reliance on others, amotivation (no purpose), multipurpose, and utilitarian oriented, respectively.

緒 言

ゴルフは、年齢や男女に関係なく広大な自然の中で楽しむことのできるスポーツである。また、適度な運動量があることから、生涯スポーツとして人気の高いスポーツである。日本の競技人口は約2,000万人と推定されており(安井、2000)、総理府による世論調査によると、国民の多くがこれから実施したいスポーツの1つとしてあげている種目でもある(原田、1999)。西田・橋本(2001)は、男子アマチュアゴルファーを対象にラウンド前後の気分(快感情、リラックス感、満足感)の変化を調べた結果、ラウンド前よりも終了後に一時

的に気分は悪くなるが、帰宅前には回復しラウンド前よりも高くなったことから、ゴルフが心理的ストレスの解消やメンタル・ヘルスの改善に有効であることを示している。

しかしながら、スポーツへの参加動機に関する研究はいくつかみられるものの(Kolt, et al., 1999; 松本他、1999; McDonough & Crocker, 2003; Weinberg, et al., 2000)、アマチュアゴルファーがゴルフに参加する動機に関しては、これまで十分に明らかにされていない。ゴルフ経費は他のスポーツと比較して高額である。早朝から時間のかかるスポーツでもある。そのような状況にもかかわらず、「なぜゴルフをするのか」「ゴルフ

* 名古屋大学総合保健体育科学センター

* Research Center of Health, Physical Fitness and Sports, Nagoya University

をする理由は何なのか」「ゴルフをする動機や種々の条件は何か」「対象によって異なるのか」などについては明確にされていないのが現状である。ゴルフを生涯スポーツとして位置づけるのであれば、ゴルフの参加動機を特定することが基本的に必要であると思われる。

ところで、伊藤（2001）は、小学生における体育の学習動機は、一人一人の子どもの中で様々なかたちで組み合わせられており、いくつかのタイプ（類型）が存在すると仮定し、クラスター分析により8つのタイプを見出している。体育における学習意欲についても、同様な考え方にに基づき6つの類型が認められている（西田、2003b）。これらの結果から、ゴルフの参加動機についても、ゴルファー各個人の中では、単一の動機だけでなく複数の動機が組み合わさっていることが仮定される。例えば、ゴルフがうまくなりたい動機と同時に、友人との親和関係を維持したい動機でゴルフを行っていることなどが考えられる。ゴルフへの参加動機の類型を知ることは、そのゴルファーに適した生涯スポーツのあり方を模索していくうえで有効な情報になると考えられる。

以上のことから、本研究では、生涯スポーツとしての立場から、①ゴルフの参加動機を明らかにすること、②参加動機の個人差をいくつかの典型的な類型に分類することを目的とした。

方 法

1. 調査対象者

年齢24歳から76歳までの男子アマチュアゴルファー計256名を対象とした。平均年齢は48.0歳、ゴルフの平均経験年数は14.5年、最近3ラウンドの平均スコアは75から130の範囲（平均値：98.3）であった。対象者の技能レベルとしては、初心者から上級者まで含まれていた。最近1年間のラウンド回数は、月に1～2回程度の者が39.0%と最も多かった。

2. 調査時期および調査場所

調査は、2001年11月から12月にかけて、岐阜県のゴルフ場（1カ所）および愛知県のゴルフ練習場（2カ所）において実施された。

3. 調査内容

（1）基本的属性

年齢、ゴルフ歴、最近3ラウンドの平均スコア、ベストスコア、最近1年間のラウンド回数：5回未満（1）～51回以上（9）、最近の練習回数：全くしない（1）～週5回以上（9）、ラウンド興味／練習興味：あまり好

きではない（1）～大好き（5）、ゴルフ仲間／経済的余裕／時間的余裕の有無：ほとんどあてはまらない（1）～よくあてはまる（5）

（2）ゴルフの参加動機

本研究では、ゴルフの参加動機を心理的要因だけでなくその他の要因も含めてとらえている。これまでのスポーツ参加動機、スポーツの楽しさ、スポーツコミットメントなどに関する先行研究（伊藤・織奥、1988；金崎・橋本、1995；西田、2003a；西田・橋本、2001；西田他、2000；丹羽・村松、1979；坪田他、1996；内田他、2004；Yonekawa & Nishida, 1989）を参考にして、以下の質問項目を取り上げた。具体的には、「ゴルフ（ラウンド）をするのは、どのような理由からですか」と質問することによって、ゴルフの参加動機をとらえることとした。

心理的要因としては、爽快（スカッとした気分になれる）、解放（仕事などを忘れられる）、統制（狙ったところに打てる）、有能（ゴルフが得意）、優越（ほめられる）、期待（これからもっと伸びていく）、熱中（夢中になれる）、親和（仲間と一緒にできる）、疲労（疲れが心地よい）、悔しさ（歯がゆい、悔しい）、向上（もっとうまくなりたい）といった内容を選んだ。そして、これらの内容を反映すると思われる項目を2項目ずつ作成し、計22項目からなる質問紙を作成した（表1）。

参加動機のその他の要因には、健康（健康を保持増進したいから）、体力不足（体力不足を補いたいから）、生涯スポーツ（生涯にわたって楽しみたいから）、友人（いろいろな人と接し友人をつくりたいから）、つき合い（つき合いで仕方がないから）、友人からの誘い（友人に誘われるから）の6項目を取り上げた（表2参照）。

以上の各項目への回答は、「ほとんどあてはまらない（1点）」から「よくあてはまる（5点）」の5段階であった。

（3）ゴルフの継続意志

「これからもゴルフを続けていくつもりである」のかどうかについて、5段階（ほとんどあてはまらない1点～よくあてはまる5点）で回答を求めた。

4. 調査方法

調査対象者に本研究の主旨を説明し調査の許可を得た後に、ゴルフ場においてはラウンドの約30分前に、練習場の場合は練習終了直後に、いずれもクラブハウスあるいは練習場のロビーにて実施した。

ゴルフの参加動機と類型化

表1 ゴルフの参加動機（心理的要因）の因子分析結果

	F1	F2	F3	F4	F5	F6	共通性
<能力向上>							
これからスコアをもっとよくしたいから	0.87	0.11	0.03	-0.03	0.00	0.09	0.78
これからもっとゴルフがうまくなりたいから	0.85	0.11	0.06	-0.06	0.08	0.16	0.77
ゴルフの技術がこれからもっと伸びていくと思うから	0.82	0.13	-0.04	0.16	0.03	0.00	0.72
スコアが今よりもっとよくなっていくと思うから	0.79	0.25	0.13	0.01	0.05	0.09	0.71
よい結果を出そうと夢中になれるから	0.73	0.24	0.02	0.02	0.15	0.07	0.61
ナイスショットを打とうと一生懸命になれるから	0.64	0.16	0.28	0.10	0.17	0.27	0.62
<有能さ>							
ゴルフが得意だから	0.12	0.82	0.07	0.02	0.07	0.01	0.70
ゴルフのセンスがよいとほめられるから	0.08	0.82	0.15	-0.04	0.09	0.03	0.71
ゴルフが上手にできるから	0.21	0.78	0.04	0.12	0.04	0.07	0.68
ゴルフがうまいとほめられるから	0.13	0.76	0.12	0.09	-0.12	0.05	0.63
狙ったところに打てるから	0.15	0.74	0.14	0.04	0.04	0.18	0.63
思い通りのボールが打てるから	0.26	0.71	0.07	0.02	-0.03	0.05	0.58
<爽快・解放>							
ゴルフをしていると何もかも忘れられるから	-0.05	0.26	0.81	0.09	0.03	0.03	0.74
うまく打てたときにスカッとした気分になれるから	0.26	-0.03	0.73	0.13	0.03	0.07	0.62
ゴルフのときは仕事や家事のことを考えなくてよいから	-0.02	0.32	0.61	0.26	0.19	0.13	0.60
打ったボールが気持ちよく飛んでいくから	0.48	0.16	0.48	0.24	0.08	0.15	0.57
<快適疲労>							
ラウンド後に適度な疲労感があるから	0.01	0.07	0.19	0.88	0.09	0.09	0.84
ラウンド後の疲れが心地よいから	0.10	0.07	0.21	0.88	0.05	0.08	0.84
<親和>							
気の合う仲間と一緒にゴルフができるから	0.16	0.00	0.06	0.05	0.89	0.06	0.82
仲間と話をしながらラウンドできるから	0.11	0.04	0.10	0.09	0.88	-0.01	0.80
<悔しさ>							
思うようにショットが打てず歯がゆいから	0.13	0.08	0.08	0.05	0.04	0.89	0.82
ミスショットが悔しいから	0.31	0.17	0.13	0.15	0.01	0.78	0.78
2乗和	4.34	4.02	2.07	1.81	1.71	1.63	15.58
(%)	19.7	18.3	9.4	8.2	7.8	7.4	70.8

結果および考察

1. ゴルフの参加動機

(1) 因子分析による尺度構成

ゴルフの参加動機（心理的要因）に対して因子分析（主因子解）を適用したところ、固有値が1.0以上の因子は6因子であった。そこで因子数を6と決定し、得られた6因子に対してノーマル・バリマックス法による直交回転を施し、因子負荷量が.40以上の項目を中心に因子の解釈と命名を行った。6因子の全分散に対する比率は70.8%であった。回転後の因子負荷行列は、表1に示されている。

その結果、それぞれの質問項目は1因子性が強く、1項目を除いて他の因子にも高い因子負荷量が重複するようなことはなかった。第1因子には、仮定した動機のうち、向上、期待、熱中の各2項目（計6項目）に高い因子負荷量が示された。これらの項目は、ゴルフの技能やスコアをこれから向上させたい気持ちや期待を表していると思われることから、「能力向上」因子

表2 ゴルフの参加動機（その他の要因）の因子分析結果

	F1	F2	F3	共通性
<健康・体力>				
体力不足を補いたいから	0.91	0.18	0.10	0.87
健康を保持増進したいから	0.91	0.21	0.02	0.86
<生涯スポーツ>				
生涯にわたって				
楽しみたいから	0.15	0.89	-0.11	0.83
いろいろな人に接し、				
友人をつくりたいから	0.26	0.81	0.18	0.76
<勧誘>				
つき合いで仕方がないから	-0.01	-0.13	0.87	0.78
友人に誘われるから	0.12	0.19	0.82	0.73
2乗和	1.74	1.59	1.49	4.82
(%)	29.0	26.5	24.8	80.4

と命名した。第2因子は、有能、優越、統制の各2項目(計6項目)に高い因子負荷量がみられ、ゴルフに対する自信や優越感などが示されている。そこで、「有能さ」因子と名づけた。第3因子に高い因子負荷量を示した項目は、爽快と解放に関する4項目であった。ゴルフの気持ちよさやゴルフを忘れての解放感などを示していると解釈されるので、「爽快・解放」因子と名づけた。第4因子は疲労に関する2項目、第5因子は親和の2項目、第6因子は悔しさに関する2項目に高い因子負荷量が示されたことから、それぞれ「快適疲労」「親和」「悔しさ」因子と命名した。各下位尺度(因子)の内部一貫性を検討するためにクロンバックの α 係数を求めたところ、第1因子から順に、.90、.89、.73、.82、.78、.75であった。いずれも高い値が得られ、以下の分析に使用可能であると判断される。

次に、ゴルフの参加動機(その他の要因)に対しても、前述と同様の手順で因子分析を行ったところ、3因子が抽出された(表2参照)。全分散比は80.4%であった。第1因子は、ゴルフによって体力を高めたり健康を保持増進させたいといった2項目に高い因子負荷量がみられ、「健康・体力」因子と命名した。第2因子は、いろいろな人と接しながら生涯にわたってゴルフを楽しみたいといった内容の2項目に因子負荷量が高かったことから、「生涯スポーツ」因子と名づけた。第3因子に因子負荷量の高い項目は、つき合いや友人に誘われるからゴルフをするといった内容の2項目であることから、「勧誘」因子と命名した。各下位尺度の α 係数を算出した結果、第1因子から順に、.84、.71、.63であった。他の尺度に比べて「勧誘」尺度の値はやや低かったが、尺度として使用可能な水準であること、内容的に妥当であることから、これら3つの尺度を採用することとした。

以上の分析結果から、ゴルフの参加動機は、心理的要因としての「能力向上」「有能さ」「爽快・解放」「快適疲労」「親和」「悔しさ」、その他の要因としての「健康・体力」「生涯スポーツ」「勧誘」で構成されると考え、これらの9因子をゴルフの参加動機を測定する下位尺度と位置づけた。これらの内容は、先行研究の結果をかなり反映していることから、下位尺度の構成概念妥当性は一定程度満たされているものと推察される。

(2) 対象による参加動機得点の比較

ゴルフの参加動機得点は、各下位尺度を構成する項目数が異なることから、各下位尺度内に含まれる項目得点の単純合計を項目数で割った1項目当たりの得点で求めた。従って、各下位尺度の得点範囲は、1点か

ら5点までであった。

ゴルフの参加動機の特徴を把握するために、まず対象者全体の平均値および標準偏差値を算出した(表3、図1)。その結果、親和、生涯スポーツ、健康・体力、能力向上、爽快・解放などの得点は高かったが、有能さおよび勧誘の得点は低かった。これらのことから、本研究対象者の一般的傾向としては、気の合うゴルフ仲間とラウンドしたり、ゴルフを生涯スポーツとして位置づけたり、健康や体力を高めたり、ゴルフ技能の向上を期待したり、ゴルフの爽快さを求めてラウンドしていると言える。また、ゴルフが得意といった有能さ、友人とのつき合いや勧誘でゴルフを行っている人は比較的少ないと思われる。

次に、年齢によるゴルフの参加動機得点を比較検討してみた。年齢区分は、24歳から49歳までの成年

表3 ゴルフの参加動機得点(全対象者)

	M	SD
<心理的要因>		
能力向上	3.70	0.87
有能さ	2.52	0.78
爽快・解放	3.68	0.80
快適疲労	3.33	0.94
親和	4.06	0.79
悔しさ	3.03	0.94
<その他の要因>		
健康・体力	3.71	0.91
生涯スポーツ	3.93	0.83
勧誘	2.83	0.92

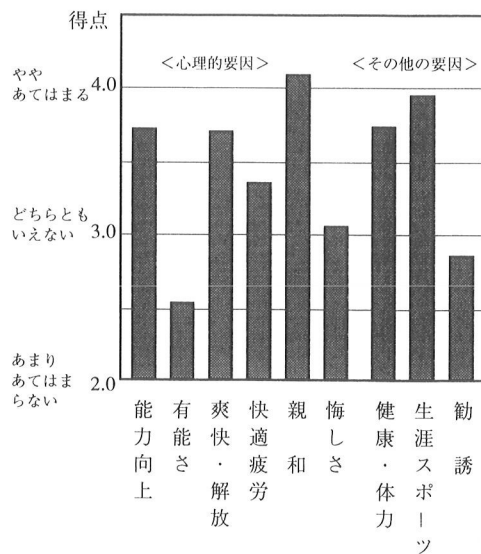


図1 ゴルフの参加動機得点

ルファーと50歳から76歳までの中高年ゴルファーの2つとし、下位尺度ごとにt検定を行った。得られた結果は、表4に示す通りである。その結果、能力向上の尺度は成年ゴルファーの方が、快適疲労および健康・体力においては中高年ゴルファーの方が有意に高い得点を示した（それぞれ、 $t=3.81, p<.001$; $t=-2.46, p<.05$; $t=-4.19, p<.001$ ）。成年ゴルファーは、今よりもっとうまくなりたいからという能力向上の動機が中高年ゴルファーよりも強く、中高年ゴルファーは成年ゴルファーよりも、健康・体力のためやラウンド後の心地よい疲れを求めてゴルフを行っているかと推察される。

また、ゴルフの技能水準によってゴルフの参加動機がどのように異なるのかについても検討を加えた。表5には、最近3ラウンドの平均スコア別に各下位尺度得点が示されている。ここでは、平均スコアの75から97までの中・上級者と98から130までの初級者に分けて、下位尺度ごとにt検定を行った。その結果、技能水準の高い中・上級者の方が初級者よりも参加動機得点の高い傾向がみられ、能力向上、有能さ、健康・体力、生涯スポーツにおいては有意であった（それぞれ、 $t=2.04, p<.05$; $t=6.76, p<.001$; $t=2.04, p<.05$; $t=3.14, p<.01$ ）。すなわち、ゴルフ技能の比較的高い人はそうでない人よりも、もっとうまくなりたいから（能力向上）、ゴルフが上手だから（有能さ）、健康増進や体力強化のため（健康・体力）、生涯にわたって楽しめるから（生涯スポーツ）といった動機でゴルフを行っていると考えられる。

2. ゴルフ参加動機の類型とその特徴

ゴルフの参加動機にどのような類型がみられるのかを検討するために、参加動機の1項目当たりの各下位尺度得点を算出し、Ward法によるクラスター分析を行った。距離の測定方法には、平方ユークリッド距離を用いた。いくつかのクラスターを設定して分析した結果、各クラスターの人数配分や解釈可能性を考慮して6つのクラスターが妥当であると判断した。

各クラスターの特徴を明確にするために、標準得点(z得点)に換算した下位尺度得点をクラスター間で比較検討した。一要因分散分析の結果、9つの下位尺度得点についてすべて0.1%水準で有意差が認められたので、LSD法による多重比較を行った。これらの結果は、表6および図2に示されている。以下においては、これらの分析結果を手がかりにゴルフの参加動機の命名を試みることにする。

第1のクラスターは、勧誘は高いが、その他の参加動機はすべて低くなっていた。特に能力向上が低かった。このクラスターは、ゴルフ技能を向上させるため

表4 年齢別にみたゴルフ参加動機得点の比較

		年齢		t 値	df=254
		24-49 歳	50-76 歳		
		n=125	n=131		
<心理的要因>					
能力向上	M	3.90	3.50	3.81	p<.001
	SD	0.78	0.92		
有能さ	M	2.47	2.57	-1.03	
	SD	0.74	0.81		
爽快・解放	M	3.60	3.75	-1.51	
	SD	0.83	0.77		
快適疲労	M	3.18	3.47	-2.46	p<.05
	SD	0.99	0.86		
親和	M	4.08	4.04	0.38	
	SD	0.81	0.77		
悔しさ	M	3.05	3.02	0.24	
	SD	0.91	0.98		
<その他の要因>					
健康・体力	M	3.47	3.93	-4.19	p<.001
	SD	1.02	0.74		
生涯スポーツ	M	3.86	3.99	-1.28	
	SD	0.82	0.83		
勧誘	M	2.82	2.84	-0.20	
	SD	1.00	0.84		

表5 平均スコア別のゴルフ参加動機得点の比較

		平均スコア		t 値	df=254
		75-97	98-130		
		n=130	n=126		
<心理的要因>					
能力向上	M	3.81	3.58	2.04	p<.05
	SD	0.81	0.93		
有能さ	M	2.82	2.21	6.76	p<.001
	SD	0.71	0.73		
爽快・解放	M	3.77	3.58	1.94	
	SD	0.86	0.74		
快適疲労	M	3.32	3.34	-0.19	
	SD	1.02	0.85		
親和	M	4.06	4.06	0.02	
	SD	0.82	0.76		
悔しさ	M	3.12	2.94	1.49	
	SD	0.90	0.98		
<その他の要因>					
健康・体力	M	3.82	3.59	2.04	p<.05
	SD	0.94	0.87		
生涯スポーツ	M	4.08	3.77	3.14	p<.01
	SD	0.83	0.79		
勧誘	M	2.76	2.90	-1.25	
	SD	0.93	0.90		

ではなく、人から誘われたり、つき合いでゴルフをしているといった特徴が認められることから、「つき合い型」と呼ぶことにした。

第2のクラスターは、能力向上は高いが、その他の

参加動機はいずれも低い値を示した。特に健康・体力や勧誘が低くなっていた。健康維持や体力強化あるいは人からの誘いを目的としてゴルフを行うのではなく、ゴルフ技能を高めることを主眼に置いているタイプであると思われることから、「能力開発型」と命名することにした。

第3クラスターは、勧誘、能力向上、快適疲労は高いが、その他の参加動機は平均的であった。スコアをよくしたり心地よい疲れを感じたいという気持ちはあるが、人から誘われないとゴルフをしないという他人主導型のタイプであると推察される。そこで、「他者依存型」と命名した。

表6 類型別にみたゴルフの参加動機得点と分散分析結果

変数	< 類型 >						F 値 df=5/250 多重比較
	1 つき合い n=49	2 能力開発 n=60	3 他者依存 n=50	4 無目的 n=19	5 多目的 n=50	6 実利志向 n=28	
<心理的要因>							
能力向上	M -0.94	0.40	0.35	-1.80	0.48	0.51	59.94
	SD 0.75	0.70	0.49	0.96	0.69	0.56	6,5,2,3 > 1 > 4
有能さ	M -0.30	-0.02	0.00	-1.48	0.53	0.66	19.80
	SD 0.82	0.72	1.01	0.55	0.93	0.90	6,5 > 3,2,1 > 4
爽快・解放	M -0.56	-0.06	-0.07	-1.35	0.89	0.56	31.29
	SD 0.88	0.82	0.64	1.23	0.60	0.73	5,6 > 2,3 > 1 > 4
快適疲労	M -0.22	-0.42	0.30	-0.99	0.98	-0.35	26.34
	SD 0.90	0.71	0.72	1.07	0.79	0.89	5 > 3 > 1,6,2 > 4
親和	M -0.14	-0.38	0.09	-0.67	0.60	0.27	8.95
	SD 0.72	1.11	0.51	1.65	0.76	1.02	5 > 3,1,2,4 6,3 > 2,4 1 > 4
悔しさ	M -0.41	0.05	0.15	-1.40	0.73	0.00	20.29
	SD 0.73	1.04	0.67	0.76	0.80	1.02	5 > 3,2,6 > 1 > 4
<その他の要因>							
健康・体力	M -0.10	-0.87	0.13	-0.60	0.83	0.75	34.40
	SD 0.78	0.93	0.44	1.37	0.57	0.66	5,6 > 3,1 > 4,2
生涯スポーツ	M -0.30	-0.41	0.21	-1.86	0.85	0.76	55.46
	SD 0.83	0.84	0.41	0.98	0.54	0.50	5,6 > 3 > 1,2 > 4
勧誘	M 0.43	-0.77	0.55	-0.19	0.43	-0.73	25.07
	SD 0.88	0.76	0.56	1.25	0.90	0.77	3,5,1 > 4 > 6,2

F 値は全て p < .001

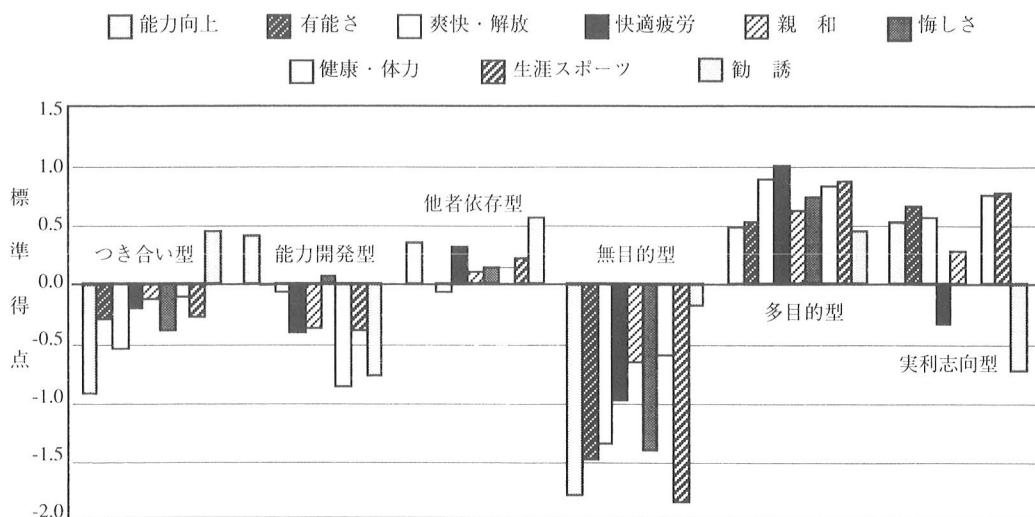


図2 各類型におけるゴルフ参加動機得点

ゴルフの参加動機と類型化

第4クラスターは、すべての参加動機で低い値を示した。特に生涯スポーツ、能力向上、有能さ、悔しさ、爽快・解放が低かった。ゴルフを行う動機が低く目的が希薄ということから、「無目的型」と命名した。

第5クラスターは、すべての参加動機において高い値を示した。第4クラスターとは逆のタイプである。特に快適疲労、爽快・解放、生涯スポーツ、健康・体力、悔しさなどが高かった。このクラスターは、様々な動機でゴルフを行っていると思われることから、「多目的型」と名づけることにした。

第6クラスターは、生涯スポーツ、健康・体力、有能さ、爽快・解放、能力向上が高かった。勧誘と快適疲労は低い値であった。ゴルフをすることが健康の保持増進や体力の強化に役立ったり、生涯にわたって楽しめたり、ゴルフが上手で狙い通りに打てたり、さわやかな気分を味わったりできることが主要な動機になっているのではないかと推察される。そこで「実利志向型」と命名した。

以上のクラスター分析の結果、ゴルフ参加動機の典型的なパターンとして、つき合い型（人に誘われてゴルフをするタイプ）、能力開発型（もっとうまくなりた

いからゴルフをするタイプ）、他者依存型（うまくなりたい気持ちはあるが、他人主導でゴルフをするタイプ）、無目的型（ゴルフをする特別な理由のないタイプ）、多目的型（様々な理由でゴルフをするタイプ）、実利志向型（ゴルフが何かの役に立つと思っているタイプ）という6つの類型に個人を分類することができた。

このようにして得られたゴルフ参加動機の類型について、それらの特徴をさらに明確にするために、年齢、ゴルフ歴、最近の平均スコア、ラウンド回数、練習回数、ベストスコア、ラウンド興味、練習興味、ゴルフ仲間の有無、経済的余裕、時間的余裕、ゴルフ継続意志について、それぞれの変数で一要因分散分析と多重比較（LSD法）を行い類型間の比較を行った。それらの結果を示したのが、表7である。特徴的な差異を中心に各類型の特徴をまとめると、以下のように示される。

<つき合い型>

ゴルフ歴は、平均17.1年で他の類型と比べて最も長い。最近の練習回数は月に1～2回程度であり、あまり練習していないようである。ゴルフのラウンドや練習は、普通からやや好きな程度である。継続意志はやや

表7 ゴルフ参加動機の類型別特徴

変数	< 類 型 >						F 値 df=5/250 多重比較	
	1 つき合い n=49	2 能力開発 n=60	3 他者依存 n=50	4 無目的 n=19	5 多目的 n=50	6 実利志向 n=28		
年 齢	M	50.7	44.3	44.9	51.9	50.9	49.0	4.15**
	SD	10.3	10.8	11.0	13.6	10.3	9.0	4,5,1 > 3,2
ゴルフ歴	M	17.1	12.3	13.7	12.6	15.3	16.4	2.09
	SD	9.0	7.9	9.6	9.4	9.3	9.7	
平均スコア放	M	99.7	96.6	101.3	106.3	94.8	94.9	5.16***
	SD	11.4	9.4	12.2	11.2	8.6	10.9	4,3 > 2,6,5 4 > 1 > 5
ラウンド回数	M	3.4	3.6	3.5	2.8	4.6	4.4	2.26*
	SD	2.6	2.3	2.5	2.1	2.7	2.6	5 > 2,3,1,4 6 > 4
練習回数	M	3.6	5.1	4.3	3.7	4.7	4.5	5.43***
	SD	1.9	1.6	1.5	1.4	1.6	1.5	2 > 3,4,1 5 > 4,1 6,5 > 1
ベストスコア	M	89.1	88.1	91.1	95.9	84.4	84.3	4.36***
	SD	12.6	10.0	13.2	11.5	8.9	10.9	4 > 1,2,5,6 3 > 5,6 1 > 5
ラウンド興味	M	3.4	4.4	4.0	3.2	4.5	4.4	15.05***
	SD	1.0	0.8	0.8	1.3	0.7	0.8	5,6,2 > 3 > 1,4
練習興味	M	2.3	3.4	3.1	2.3	3.6	3.8	10.34***
	SD	1.3	1.3	1.1	1.4	1.4	1.2	6,5 > 3,1,4 2,3 > 1,4
ゴルフ仲間	M	4.1	4.1	4.1	3.8	4.4	4.5	2.01
	SD	0.9	1.1	0.8	1.2	0.8	0.6	
経済的余裕	M	2.9	3.0	3.3	2.6	3.3	3.2	2.36*
	SD	1.1	1.0	0.8	1.2	1.0	1.3	5 > 1,4 3,6 > 4
時間的余裕	M	2.8	3.3	3.4	2.7	3.8	3.7	7.93***
	SD	0.9	1.1	0.8	1.1	0.8	0.9	5 > 3,2 > 1,4 6 > 2,1,4
継続意志	M	4.2	4.6	4.7	4.2	4.0	5.0	10.79***
	SD	0.7	0.6	0.5	1.2	0.3	0.2	6,5 > 3,2 > 1,4

*p < .05 **p < .01 ***p < .001

低い。人数比は、全対象者の19.1%であった。

<能力開発型>

平均年齢が44.3歳と比較的若い。他の類型と比較して最も若い人達である。そのためにゴルフ歴は平均で12.3年と最も短くなっている。しかしながら、練習回数は週に1回以上と類型の中で最も多くなっており、ゴルフ技能を高めようとする意欲が感じられる。人数比は、全対象者の23.4%であった。

<他者依存型>

すべての変数において特に顕著な特徴が認められない。いずれも類型の中で平均的な数値を示している。経済的な余裕は、比較的ありそうである。全対象者の19.5%であった。

<無目的型>

平均スコアが106.3、ベストスコアの平均が96.0といずれも悪い。ラウンド回数は年に10回程度と少ない。ラウンドや練習の興味は、普通かやや好きな程度である。ゴルフをする経済的な余裕や時間的余裕はあまりない。これらの変数とゴルフ仲間やゴルフ継続意志は、いずれも類型の中で最も低い値であった。平均年齢は51.9歳と最も高い。該当する人数は、全対象者の7.4%と最も少なかった。

<多目的型>

無目的型とは逆の傾向を示す。平均スコア(94.8)やベストスコア(84.4)が比較的よい。ラウンド回数も年に20回以上と比較的多い。ラウンドへの興味がかなり高い。ゴルフ仲間が多く、ゴルフをする経済的余裕や時間的余裕もある。継続意志もかなり強い。全対象者の19.5%であった。

<実利志向型>

平均スコア(94.9)やベストスコア(84.3)が比較的よい。ラウンドや練習が好きである。ゴルフ仲間がいて、ゴルフをする時間的な余裕もある。継続意志は最も強い。人数比は、全対象者の10.9%であった。

要 約

本研究では、生涯スポーツとしての立場から、①ゴルフの参加動機を明らかにすること、②ゴルフ参加動機の類型化を試みることを目的とした。対象者は、24歳から76歳までの男子アマチュアゴルファー計256名であった。収集されたデータに因子分析やクラスター分析などを適用したところ、以下の結果が得られた。

- ①因子分析の結果、ゴルフの参加動機は、心理的要因として「能力向上」「有能さ」「爽快・解放」「快適疲労」「親和」「悔しさ」、その他の要因として「健康・体力」「生涯スポーツ」「勧誘」の因子がそれぞれ抽出さ

れた。

- ②ゴルフの参加動機は、調査対象者全体の一般的傾向として、親和、生涯スポーツ、健康・体力、能力向上、爽快・解放などが高く、有能さおよび勧誘は低かった。一般的には、気の合うゴルフ仲間とラウンドしたり、ゴルフを生生涯スポーツとして位置づけたり、健康や体力を高めたり、ゴルフ技能の向上を期待したり、ゴルフの爽快さを求めてラウンドしていると推察された。
- ③年齢によるゴルフの参加動機を調べてみると、能力向上は成年ゴルファー(24~49歳)の方が、快適疲労および健康・体力は中高年ゴルファー(50~75歳)の方が有意に高かった。成年ゴルファーは、今よりもっとうまくなりたいという能力向上の動機が中高年ゴルファーよりも強く、中高年ゴルファーは成年ゴルファーよりも、健康の保持増進、体力の強化、ラウンドの後の心地よい疲れを求めてゴルフを行っていることが示された。
- ④技能水準の高い中・上級者は、初級者よりもゴルフの参加動機が高い傾向を示し、特に、能力向上、有能さ、健康・体力、生涯スポーツにおいて有意であった。中・上級者は、初級者と比較して、もっとうまくなりたいから、ゴルフが上手だから、健康や体力のため、生涯にわたって楽しめるからといった動機でゴルフを行っていることが推察された。
- ⑤クラスター分析の結果、ゴルフの参加動機は、つき合い型(人に誘われてゴルフをするタイプ)、能力開発型(もっとうまくなりたいからゴルフをするタイプ)、他者依存型(うまくなりたい気持ちはあるが、他人主導でゴルフをするタイプ)、無目的型(ゴルフをする特別な理由のないタイプ)、多目的型(様々な理由でゴルフをするタイプ)、実利志向型(ゴルフが何かの役に立つと思っているタイプ)の6つの類型に分類された。

引用文献

- 原田宗彦(1999) スポーツ産業論入門. 杏林書院, 232-234.
- 伊藤豊彦(2001) 小学生における体育の学習動機に関する研究: 学習方略との関連および類型化の試み. 体育学研究, 46-4: 365-379.
- 伊藤豊彦・織奥信男(1988) 体育学習における児童・生徒の楽しさを規定する要因と教師の認識. 体育学研究, 33-2: 123-133.
- 金崎良三・橋本公雄(1995) 青少年のスポーツ・コミットメントの形成とスポーツ行動の継続に関する研究: 中学生・高校生を対象に. 体育学研究, 39-5: 363-376.
- Kolt, G. S., Kirkby, R. J., Bar-Eli, M., Blumenstein, B., Chadha, N., Liu, J. and Kerr, G. (1999) A cross-cultural investigation of

ゴルフの参加動機と類型化

- reasons for participation in gymnastics, *Int. J. Sport Psychol.*, 30(3): 381-398.
- 松本秀夫・渋谷 聡・田中靖久 (1999) 学生のスポーツ参加に関する研究－海洋学部生におけるスポーツ経験と参加動機を中心として－. *東海大学紀要: 海洋学部一般教養*, 25: 45-56.
- McDonough, M. H. and Crocker, P. R. E. (2003) Comparing two models of sport participation motivation among young adolescent female sport participants. *J. Sport & Exercise Psychol.*, 25: S98 Suppl. S Jun.
- 西田 保 (2003a) ゴルフにおける心技体と関連変数との関連性. *総合保健体育科学*, 26-1: 23-28.
- 西田 保 (2003b) 体育における学習意欲診断システムの開発. 平成12年度～平成14年度科学研究費補助金(基盤研究C) 研究成果報告書, 23-32.
- 西田 保・橋本公雄 (2001) ゴルフによる気分の変化に影響を及ぼす要因. *総合保健体育科学*, 24-1: 15-23.
- 西田 保・渡辺俊彦・佐々木 康・竹之内隆志 (2000) 中高年者の運動への動機づけを促進および阻害する要因に関する研究. *デサントスポーツ科学*, 21: 15-26.
- 丹羽勲昭・村松洋子 (1979) 女子大生のスポーツ参加動機に関する因子分析的研究. *体育学研究*, 24-1: 25-38.
- 坪田暢允・中島豊雄・梅村清弘・勝瀬幸貞・塚田直和・西田保・村上昭三・勝瀬裕介・佐藤 馨 (1996) ゴルファーに関する研究－ゴルフ技術を焦点にした意識調査から－. *名古屋学院大学論集 (人文・自然科学編)*, 33-1: 85-118.
- 内田博昭・西田 保・高橋結香 (2004) 少年サッカーにおける楽しさの構造と性格特性に関する研究. *総合保健体育科学*, 27-1: 39-45.
- Weinberg, R., Tenenbaum, G., McKenzie, A., Jackson, S., Anshel, M., Grove, R. and Fogarty, G. (2000) Motivation for youth participation in sport and physical activity: Relationships to culture, self-reported activity levels, and gender. *Int. J. Sport Psychol.*, 31(3): 321-346.
- 安井信之 (2000) 日本のゴルフは世界の不常識. 日本文化出版.
- Yonekawa, N. and Nishida, T. (1989) Participation motivation, continuing motivation and outcomes of golf experiences of amateur golfers in Japan. *Proceedings of the 7th World*

(2005年12月13日受付)

